

# 家族間の暴力 — DV (ドメスティック・バイオレンス) ・児童虐待

## Q & A

をなくすために



### Q1 DVと児童虐待との関わりは？

A1

DV (ドメスティック・バイオレンス=配偶者・恋人からの暴力)と児童虐待は重なり合っています。DVのある家庭の半数以上で、子どもも暴力の被害を受けています。たとえ暴力を直接振るわれなくても、子どもの目の前でDVが行われるだけでも、児童虐待(心理的虐待)にあたります。

### Q2 殴ったり蹴ったりすることだけがDV？

A2

DVは、殴る、蹴るといった「身体的暴力」だけではなく、「精神的暴力」「性的暴力」「子どもに関わる暴力」など、心や体を深く傷つけ、人としての尊厳を奪う行為はすべて暴力であり、重大な人権侵害です。



#### ■ DVの形態

**身体的暴力:** 殴ったり蹴ったりする、物を投げつける、突き飛ばす など

**精神的暴力:** 人格を否定するような暴言を浴びせる、何を言っても無視する、交友関係を細かく監視する など

**性的暴力:** いやがっているのに性行為を強要する、見たくないポルノビデオなどを見せる、避妊に協力しない など

**子どもに関わる暴力:** 子どもに暴力を見せる、子どもを危険な目にあわせる、相手から子どもを取り上げる など

### Q3 一部の限られた人たちの問題では？

A3

家族間の暴力は、どの家庭にも、誰にでも起こり得る身近な問題です。内閣府の調査(\*)によると、配偶者から身体的暴力、精神的暴力、性的暴力のいずれかを1つでも受けたことのある女性は、約3人に1人(33.2%)に達します。また、暴力を振るう人に一定のタイプはなく、年齢、学歴、職種、年収には関係ないといわれています。

### Q4 被害者はどうして逃げないの？

A4

逃げられない事情がいろいろあります。「逃げたら殺されるかもしれない」という恐怖や、配偶者の収入がなければ生活が困難という経済的問題、子どもの安全や学校の問題など。長年、暴力を振るわれ続けて、「自分は配偶者から離れることはできない」「助けてくれる人は誰もいない」と無力感におちいり、逃げられなくなることもあります。

※「男女間における暴力に関する調査」平成21年(2009年)3月公表